

分かっているけど実行できない状態から脱却するにはどうしたらよいか？

APを活用して学校の実行力を高めるためには！

どのような子どもたちに育ててほしいのか（子どもたちのどんな力を伸ばすのか等）、そのために何を課題として捉え、向き合い、何に力点を置いて学校づくりを進めていくのかといった学校の思い（ビジョンと戦略）を実行する力、実現する力が必要です。教育研究家の妹尾昌俊氏は、著書「思いのない学校、思いだけの学校、思いを実現する学校」（学事出版）の中で、次の3つのことが重要であると述べています。

1 当事者意識を高めること

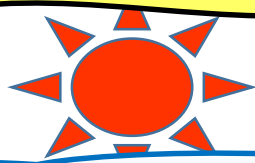
「それは管理職が考えること」とか「中心になる人がいないと…」などと、よそ事として捉えていては思いは実現しません。県教委のスライドでは、APを管理職のみが考えるのではなく、教職員が当事者意識を持ち、考えを共有すること、また、目標達成に向け検証・改善の視点を揃え、1年に複数回サイクルを回す仕掛けづくりをすることが重要であるとしています。

2 予め先例（成功事例や失敗事例）から学んでおくこと

子どもが関わるので学校は石橋をたたくことを重視しがちです。どう行動すればよいか、自分ならどう行動するかを先例から学び、シミュレーションしておくことが重要です。一人一人の先生がシミュレーションできるかどうかまで具体化し、みんなで石橋を渡るようにしましょう。

「学校が変わるには3人の同志が必要だ。」とされています。小さなことでも3人で協力して取り組み、子どもたちの変容を見せることができれば、職場の理解は変わってきます。建設的な話ができる同志を2人つくって、小さくても確かな一歩を示していきましょう。

ビジョンと戦略のイメージ



妹尾氏は、ビジョンと戦略を「様々な取組を束ねる軸となる考え方」と意味づけています。

到達目標：今年中に〇〇山の頂上まで登ってみせる！

ビジョン：目標の山に登った後、どのような景色が見えるかについて描写したもの

戦略：〇〇山の頂上までには様々な道がある中で、どのような考え方のもとで道を選ぶか、どのような道は外せないと考えるのか、そうしたことをストーリー立てて、一貫性をもって説明したもの。

登り始める前に到達目標やビジョンと戦略を登山グループ内で十分に共通理解しておきましょう！